

「確かな学力」を育てる学習活動の工夫 — 少人数学級に応じた算数科の授業づくり —

I 研究の内容と方法

1. 研究内容

○授業づくり

(1) 児童の実態の把握

○NRTや学力診断テストの結果、「Q-U」などを活用して各学年の児童の実態を把握。学級集団づくり、学習指導に生かすために課題や手だてについて検討する。

(2) 理論研究

○全体研究で、本校の課題を共有し、研究の基本方針の検討を行う。

○本校の課題を意識した学習会を行い、研究に生かす。

(3) 研究授業

○授業研究・・・一人一実践を基本とし、授業を通して実践的に学び合う。

研究授業の授業案検討から学び合い、深めることで指導法を学ぶ。

○学習基盤づくり

(4) 学習規律・習慣の確立

○「玉宮小学習の約束」や「表現力アップ」など、学習規律の定着を図る。

○家庭学習について全校で取組を進め、習慣化をはかる。

○朝学習の時間の活用について確認、取組を行う。

2. 研究実践

(1) 児童の実態の把握

hyper-QU年2回実施 K-13法による分析

全校での課題と手だての確認・授業に生かす手だての検証

NRT、学力テストの結果の分析・課題を意識した授業づくり

(2) 学習会

「甲州市ティーチャーズノート」の意義と活用・・・久保田指導主事

「個のニーズに応じた支援を考える」・・・山梨大学鳥海教授

(3) 研究授業

○一人一実践・研究授業

・ 7 / 1 第5学年 授業実践「小数のわり算」

・ 10 / 7 第2学年 授業実践「かけ算(1)」

・ 10 / 16 第4学年 研究授業「計算のきまり」

・ 10 / 28 第6学年 授業実践「比例をくわしく調べよう」

・ 11 / 27 第1学年 授業実践「かたちあそび」

・ 12 / 9 たけのこ学級 授業実践「順序よく整理して考えよう」

(4) 学習規律・習慣の確立

○「玉宮小学習の約束」「表現力アップ」の確認・全校での取組

○学習の約束チェックシートを使つての意識調査・改善に向けての取組

○玉宮小「家庭学習の手引き」及び学年ごとの取組の目安・内容の提示・取組

Ⅱ 成果と課題

1. 成果

< 児童 >

- 一度試してうまくいかないときは、再度試してみることや、別の方法で試してみることの大切さを覚えてきており、そのことが計算などの正確さに結びついてきている。
- 簡単な課題であれば、発表の時に ①結論（態度を表す）②その理由（根拠を示す）の順番でわかりやすく発表することができるようになってきている。
- 様々な角度から思考しようとする態度が児童の中に育ってきているので、考え方の広がりが出てきている。そのことが、少人数を克服することにもつながってきている。
- 学び合いの深まりまでは難しいところもあるが、子ども同士で教え合う、相談し合う等の場面は日常的にみられるようになってきている。
- 授業の中に、自分の意見とその理由を発表する場面を作ってきたことで、一人ひとりが自分の考えを持ち、発表できるようになってきた。
- ペアでの話し合いの時間を持つことで、お互いの考えを補ったり、深めたりすることができた。

< 教師 >

- 具体物を使うことで時間の短縮を図ることができたり、集中力を高めることができた。
- 一人一人の考えを基にしながら、交流の機会を設定し、考えを深めていく場面を作ったり、学びの振り返りにも活用できる掲示物を作成したりと、児童の思考や表現力を高める工夫が定着してきた。
- 作図や数直線、さまざまな作業など算数的活動を有効に取り入れたことが、児童の思考力や表現力を向上させることにつながっている。
- ホワイトボードの活用の仕方を様々工夫したことは、児童の表現力を伸ばすことの助けになるばかりでなく、聞いている子どもたちの思考力を伸ばすことにもつながった。
- 少人数を克服する関わりの仕方を模索し、人数が少なくてもそれを感じさせない思考の深まりのある授業展開ができるようになってきている。
- 「めあて」「まとめ」等、学習の流れを意識して1時間の授業を考え、取り組む習慣がついてきた。
- 授業を見合ったり、指導案の検討をする中で、ペア学習や算数的な活動、ホワイトボードの活用など、少人数学級に適した具体的な指導方法を知り、実践できた。
- 特別支援に関わる学習会や ICT を活用した授業など学校課題に向けて学習する事ができた。

2. 課題

- 少人数だからこそできることばかりではなく、少人数だからこそ難しいところを研究し、改善できるところや改善すべき点を見直していくことが必要なのではないか。
- 本年度の研究の基礎の上に ICT の活用を取り入れた授業研究を行っていくとよい。
- ICTの活用が目的ではなく方法・ツールとして生きる授業を研究していく。

Ⅲ 成果物

- 「家庭学習の手引き」「玉宮小学習の約束」「表現力アップ」など学習の基盤づくり
- Q-Uを生かした、少人数学級に応じた指導案
- ICTを活用した授業づくり

(研究主任 田邊 珠紀)